

動物実験施設

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	8 人	
合計	12 人	

2 教員の異動状況

- 加藤 秀樹(准教授)(平成 10 年 12 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日助教；平成 19 年 4 月 1 日～現職)
- 高林 秀次(助教)(平成 15 年 11 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日助手；平成 19 年 4 月 1 日～現職)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	4.06	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

- (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Takabayashi S, Seto S, Katoh H. A New *Enpp1* allele, *Enpp1^{tw-Ham}*, identified in an ICR closed colony. *Exp Anim* 63: 193-204, 2014 [1.172]

インパクトファクターの小計 [1.172]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Miyazaki T, Ikeda Y, Kubo I, Suganuma S, Fujita N, Itakura M, Hayashi T, Takabayashi S, Katoh H, Ohira Y, Sato M, Noguchi M, Tokumoto T. Identification of the genome region responsible for experimentally induced testicular teratoma 1, ett1. *Mamm Genome* 25(7-8):317-326. 2014 [2.883]

インパクトファクターの小計 [4.055]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤秀樹. Russell and Burch が提唱した dramatype. 実験動物技術、49(1) : 15-20、2014、【実験動物学】、[0]
2. 加藤秀樹. 遺伝的モニタリング : 過去・現在・未来. 実験動物技術、49(2) : 83-87、2014、【実験動物学】、[0].
3. 加藤秀樹. 遺伝的モニタリングの技法 : 近交系およびクローズドコロニーを対象とした品質検査法. 実験動物技術、49 : 89-94、2014、【実験動物学】、[0].

インパクトファクターの小計 [0]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (100 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(4) 財団助成金	0件	(0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件	(0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

新学術領域研究（研究領域提案型）、がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動、平成 22～26 年度、100(万円)

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	1件	3件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	1件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Katoh H. Do you know how to maintain genetic quality of outbred colonies? In Seminar: How to implement genetic quality on my breeding colony. AALAS 65th National Meeting. San Antonio, TX, USA, 2014年10月

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

1. 加藤秀樹. 遺伝的モニタリングー過去・現在・未来. 第61回日本実験動物学会総会. 2014年5月、札幌.

2. 加藤秀樹. 遺伝的モニタリングの技法：近交系およびクローズドコロニーを対象とした品質検査法. 第 61 回日本実験動物学会総会. 2014 年 5 月、札幌.
3. 加藤秀樹. 遺伝子組換え動物（法規制と命名法）（フロンティアセミナーⅡ）. 第 61 回日本実験動物学会総会. 2014 年 5 月、札幌.

4) 座長をした学会名

1. 第 61 回日本実験動物学会総会. 2014 年 5 月、札幌.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 加藤秀樹：国際実験動物科学会議（ICLAS：International Council for Laboratory Animal Science）、実験動物品質ネットワーク（Laboratory Animal Quality Network）、委員
2. 加藤秀樹：日本実験動物技術者協会・常任理事
3. 加藤秀樹：公益社団法人日本実験動物学会学術集会委員会・委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー（

1. 高林秀次：1 回、Experimental Animals（日本）

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

1. 加藤秀樹. 実験動物のクローズドコロニーに関する遺伝学的研究（公益財団法人実験動物中央研究所 野村龍太）.
2. 加藤秀樹. コモンマーモセットの遺伝学的研究（財団法人実験動物中央研究所伊藤豊志雄、野村龍太）

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. コモンマーマウスの MHC 領域 SSLP プライマーを用いた遺伝子型判定

24 頭のマーマウスを対象に MHC 遺伝子領域内の 7 つの SSLP プライマーを用いてハプロタイプ解析を行った。

2. 疾患モデルマウスの次世代シーケンサーによる解析

ICR クローズドコロニーマウスから神経原性の筋疾患を呈する自然突然変異マウスを見出した。この異常は筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の疾患モデルと考えられた。本異常マウスのゲノム DNA を用いて次世代シーケンサーによるエクソーム解析を行った結果、ある遺伝子にアミノ酸置換を伴うミスセンス変位があることが明らかになった。現在、この遺伝子をノックアウトしたマウスを作製して解析を行う予定である。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

下記の研究課題については継続して実施している。

1. 加藤秀樹. 実験動物のクローズドコロニーに関する遺伝学的研究 (前年度より継続)
2. 加藤秀樹. コモンマーマウスの遺伝学的研究 (前年度より継続)

15 新聞, 雑誌等による報道